



KELAB JEPUN KUALA LUMPUR

THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPUR (PPM 0041425111963)

NO.2, JALAN 1/86, OFF JALAN TAMAN SEPUTEH, 58000 KUALA LUMPUR.

TEL: 03-2274 2274 FAX: 03-2274 3584 Email: office@jckl.org.my

第 59 回 K L日本人会年次総会 議事録（案）

開催日時：2023 年 6 月 24 日（土）午前 10 時 30 分～11 時 45 分

場所：KL 日本人会 第 1 ホール

出席者：A-0704 (0002) 安部、A-0722 赤澤、D-0066 土井、E-0151 江間、E-0153 (0550) 遠藤、
F-015 藤井、F-0584 (0885) 福岡、F-0615 (0022) 藤原、G-0087 後藤、
H-1231 (0040) 堀口、H-1247 (0006) 星合、H-1249 (0064) 平田、H-1266 平垣内、
H-1277 (0068) 細川、H-1290 長谷川、H-1291 久野、H-1292 保坂、I-1321 池田、
I-1329 (0184) 飯塚、I-1349 池田、I-1370 石川、I-1371 石田、K-1416 熊谷、
K-2526 蒲谷、K-2580 葛西、K-2581 加悦、K-2620 (0914) 神林、K-2639 (0164)
柏原、K-2641 小林、K-2661 (0001) 狩俣、K-2688 風間、M-1007 万代、M-1338 森田、
M-1587 松尾、M-1839 水上、M-1840 (0754) 前田、M-1859 森田、
M-1890 (0042) 森本、N-1383 長島、N-1409 (0916) 中島、N-1436 (0031) 中林、
N-1437 中畑、N-1438 (0026) 鳴釜、N-1439 (0906) 中林、O-0989 岡本、
O-1167 (0866) 岡部、O-1188 (0078) 小田、O-1205 (0801) 小野澤、O-1277 岡田、
O-1279 小川、O-1307 大橋、S-1172 杉山、S-2066 守護、S-2104 (0024) 白石、
S-2118 城間、S-2119 佐々木、S-2135 (0053) 荘司、S-2140 陶山、S-2170 佐藤、
S-2177 関野、S-2178 宗、S-2184 (0370) 菅原、T-1845 (0005) 高松、T-1860 田中、
T-1862 田口、T-1888 高橋、T-1890 田中、T-1906 (0003) 犬塚、T-1913 富田、
T-1920 土谷、T-1921 田上、U-0451 梅田、Y-1249 山本、Y-1320 柳井、Y-1385 安永、
Y-1386 山田、Y-1413 吉田、Y-1433 山口、Y-1436 山田、Y-1439 (0013) 安光

以上、参加者 80 名（議決権：107）（敬称略・順不同）

※オブザーバー：かとれあ会 亀島会長（1 名）

■ 定足数の確認／開会

（柳井事務局長）

開会に際し定足数の確認を行い、10 時 30 分定刻の時点で、全体の総議決権数は出席者と委任状合わせて 294 であり、会則 7 条 2 項(a)に基づき本総会は適正に成立したとして開会が宣言された。

開催時の出席者（議決権数）は、理事の最大定員（29 名）の 2 倍以上にあたる 80 名（議決権数 107）。開会までに事務局で受け付けた有効な委任/議決権の数は 187（議長に委任 187 通、出席会員に委任無し）であった。（最終的に確定した出席者数 80 名（議決権数 107）、委任含む議決権総数 294）

■ 議長の選出

（柳井事務局長）

会則 9 条（a）に従い、岡部会長が本総会の議長に選出された。

（1）第 58 回年次総会議事録案の審査

（岡部会長）

会員の皆様へ 2023 年 5 月 25 日（総会案内時）に E-mail にて送付された議事録について、審査が行われた。

第 58 回年次総会議事録案は、意義なく原案通り承認された。

（2）2022 年度事業報告及び会員数推移報告

① 2022 年度事業報告（要旨）

（岡部会長）

岡部会長より各委員会の 2022 年度事業の総括報告がなされた。その概要は次の通り。

総務委員会

会長、副会長、各委員長、顧問で構成した総務委員会を毎月理事会の1週間前に招集(会議室及びオンライン会議)し、委員会等からの様々な提案事項を検討・審議し、その結果を理事会へ報告または上程した。また、各委員会間にまたがるような日本人会の運営上の課題や中長期の各種課題に対して議論を行い、必要に応じ継続的に審議するようにした。**規約関係** 特になし、**セカンドホーム関係**特になし

企画広報委員会

2022年4月：こどもの日ぬりえイベント：160作品132名の参加をいただいた。

2022年10月：第4回秋の味覚を楽しむ会を3年ぶりに開催。家族連れから単身者まで幅広く110名の参加者からは高評価をいただいた。

2022年12月：クリスマス会を3年ぶりに開催し約600名にご来場いただいた。当日は、帝京マレーシアの学生やボランティアの方々にご協力を頂き、参加した大勢の子供たちを楽しんでもらうことができた。

3年ぶりのイベント開催で集客など不安な部分もあったものの、活況な盛り上がりとなり、23年度も継続して開催することを検討したい。

会員関係：新規入会者の集いは、5回実施し、合計で226名の参加があった。

ニューズレター編集委員会：毎月初旬にホームページへ掲載、E-mailにて会員へのお知らせを発信してきた。ボランティア編集員を含む編集委員によるニューズレター編集会議を開催し、毎号の特集内容、その時期にあったコンテンツを検討、編集方針を決定した。編集委員による取材活動、原稿の作成を実施。また寄稿については原稿の作成依頼を関係各所・諸氏に行い、編集・校正作業を実施した。是非多くの会員の皆様にご覧いただき、また感想やご意見をいただければ有難い。

財務委員会

定例理事会にて月次財務報告を行った。収支決算については、後ほど高松財務委員長より詳細報告させていただく。会員数はここ数年減少局面にあり、今後も会員数の動向に留意しつつ、コスト管理を徹底する必要有り。会員の皆様のご理解とご協力をお願いしたい。

クラブハウス委員会

当会館の定期的な点検、補修、メンテナンスを行ってきた。クラブハウス将来計画小委員会による2022年度の積立金計上額については後ほど平田委員長よりご報告させていただく。

店舗委員会

2023年店舗懇談会の実施、店舗契約更新(2023年4月～26年3月)を行った。

文化活動委員会

2023年3月末現在、合計：45の部・同好会が活動。新規発足2。参加者が集まらない等の理由から廃止が4サークルあったが、人数を増やした部も複数あった。コロナによる活動制限がなくなり、イベントや様々な体験クラス等が再開している。

スポーツ活動委員会

2023年3月末現在、20部・同好会が活動。廃止1。昨年11月より日本人学校の施設を利用するイベントも、徐々に再開している。

学校委員会

園児・児童・生徒数の推移：2020年から断続的に継続してきたコロナ禍が年度初めにエンデミックへ移行したことから園児・児童・生徒の減少に歯止めが掛かり、年度終わりには前年同月を上回るまでに回復した。

2022年度 園児・児童・生徒数の推移

年月	幼稚部	小学部	中学部	合計
2021年4月	45	415	94	554
2022年3月	49	389	86	524
2022年4月	38	346	89	473
2023年3月	63	395	91	549

2022年度は、2年ぶりに全く休校措置のない正常な状態で教育活動を行うことができた。学校行事も3年ぶりに保護者が参観する形で開催することができた。全ての行事が3年ぶりの開催となり、教職員にとっては十分な引き継ぎのない中での行事開催は大変な苦勞であったが、全ての学校行事を成功裏に終えることができた。2018年度よりICT教育の充実について注力してきたが、現在はほとんどの学年においてクロムブックやiPadなどのICT機器が1人1台使える環境が整い、ICT機器を活用した授業実践の充実を目指している状況である。今年度はコロナ禍で中断していた国際交流会を全学年で行うことができ、英会話の重要性についても再確

認できた。

2022 年度（令和 4 年度）予算・決算

・学校一般会計（小中学部）：収入実績は概ね予算通りで、支出実績は、電気代、水道代の高騰で光熱給水費が上昇したが、最低賃金改定や物価高の影響から補正予算を策定した。最終的には、収支は 562 千リングの黒字で着地した。

・学校一般会計（幼稚部）：幼稚部では、当初の期待以上に園児数が回復した一方で、園児増に見合った教員数の確保はじげ取得の厳格化もあって時間を要したため、逆に支出は増えず、結果として、337 千リングの黒字となった。コロナで最悪の時期の存続を危ぶむ状況からは脱したが、引き続き緊張感をもって経営を続ける。

・学校維持会計：学校施設に付随する各種設備等の調達・保守・維持を扱っている学校維持会計について、収入は予算に対し 98%。支出は、予定していたエアコンの据え付けや IT 関連機器の調達が遅れたこと等から予算消化が少々遅れており、予算比 76%で着地した。遅れている各種工事は次年度 1 学期に挽回の予定。

・新校舎会計：学校の校舎、施設等の固定資産管理と、現スパン校舎建設から 50 年後（2042 年）の校舎建替えの為の資金積み立てを目的として運営している。今年度、校舎改修工事が急速に進捗したことで予算消化速度が加速しているが、おおむね計画通り。

2022 年は経営環境がコロナ禍から平常時へ戻る大きな転換点となった。最低賃金の大幅改定等に伴う人件費や物価の急騰は予断を許さない水準にある。園児・児童・生徒数は、今後は緩やかに回復が見込まれるが、特に幼稚部は園児数に見合った教員確保が緊急課題となっている。学校運営体制の整備については、学校経営の建付けの改革を進めてきており、併行してコンプライアンス、法務の専門家と業務委託契約を締結して支援を受けられる体制を整え、抜本的な強化を図ってきた。関係者の皆様の引き続きのご理解とご協力をお願いしたい。

教育施設管理委員会

2022 年 12 月：帝京マレーシアと日本人会の覚書更新。

福利厚生委員会

・はぐくみ会・出産準備教室：新型コロナにより 20、21 年度は開催が不可能であったところ、22 年度より、活動を再開することができ、はぐくみ会は計 13 回開催、76 名の参加、出産準備教室は計 2 回開催、12 名の参加があり、活動にご協力いただいているボランティアの皆様へ感謝を申し上げる。

・予約制オンライン無料健康相談：21 年 1 月から月 1 回の頻度で、バートよしみ医師にボランティアで実施して頂いている。22 年度も継続して頂き、計 39 名の利用があった。バートよしみ医師にあらためて心から感謝申し上げたい。

日本人墓地維持管理委員会

・2022 年 9 月 11 日：秋季慰霊祭：3 年ぶりにご来まいいただいた、広島県呉市、浄土寺住職、念譽和尚の先導により実施。

・2023 年 3 月 5 日：春季慰霊祭：長年にわたりご先導いただきました念譽和尚は、ご高齢となられたため今回よりご子息の、広島県呉市、浄土寺副住職、良輝和尚の先導により実施。

・日本からの墓地訪問者も増えており、2022 年 10 月 9 日：林外務大臣の日本人墓地訪問があった。

IT システム委員会 会員管理システムの刷新に向け、テストを継続中。

盆踊り実行委員会（2022）

2022 年 7 月 16 日（土）19:00 より Kompleks Sukan Negara Shah Alam（通称パナソニック スタジアム）にて、第 46 回盆踊り大会を 3 年ぶりに開催。来場者数推定 5 万人超。大きな事故などなく成功裏に終了した。ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

バザー実行委員会（2022）

2022 年 11 月 6 日（日）第 50 回チャリティバザーを Eastin Hotel にて開催した。約 1,000 名の方々にご来場いただいた。バザー当日売上げ収益と皆様からの現金ご寄付から、約 84,000 リングを 11 ヶ所の福祉施設に寄付する提案を JCKL 慈善基金に対し行った。ご協力いただいた皆様に、改めて感謝申し上げます。

新年会実行委員会（2023）

2023 年 1 月 7 日に第 28 回新年会を会館にて開催、約 800 名程度の参加者があり、事故・怪我無く、無事終了した。コロナ前よりは規模を縮小して開催しましたが、おおむね好評だったと認識している。ご協力いた

いた皆様に、改めて感謝申し上げます。

海外安全関係 主に新型コロナウイルス感染症対策に関して、情報提供を行った。

婦人部

地元への社会貢献：定期的なボランティア訪問支援活動 ①ブキナス身障者施設 ②PJ スパスティックセンター音楽セラピー。この2つの福祉施設は、かとれあ会が長年にわたり支援活動を行っている。

慈善活動・行事関連

- ・寄付先福祉施設との交流：寄付先福祉施設6箇所へ訪問。2箇所へバーチャル訪問（オンライン）。
- ・チャリティバザー関連：バザー活動の一環として、バザーサポーター／手芸品製作チームの皆さんと連携して活動。

11月6日(日) Eastin Hotelにて第50回 KL日本人会チャリティバザー2022を開催。4月25日(火)バザー収益金ドネーション贈呈式を行い、マレーシアの11福祉施設に総額84,000リンギを寄付。

日本人会関係イベントに協力：1月 KL日本人会新年会、3月と9月春と秋の慰霊祭、7月盆踊り大会、隔月開催の日本人会新規入会者集いにはスピーカーとして参加

- ・日本人学校PTAとの交流：役員の選出に際し、連携。

ドネーション贈呈式での福祉施設の方々からの感謝の言葉と嬉しそうな笑顔をみて、かとれあ会の社会貢献活動は欠かせない活動であり、日馬友好へ大きく貢献しているのだという思いを強くした。

昨年、婦人部かとれあ会は創立50年を迎え、これからも社会福祉と日馬友好に貢献し続けて頂きたい。またかとれあ会会長及び役員は、時として非常に忙しい役割ですが、ペリング前会長には、会長を2年連続でお勤めいただいた。同様に2年連続でかとれあ会役員をお勤めいただいた方が他にもおられ、おかげでコロナからコロナ明けの難しい時期の活動を円滑に進めていただくことができたと考えられる。

全マレーシア日本人会

第43回目のマレーシア全日本人会連絡会が、2022年10月7日(金)ペナン領事館にて開催された。12か所の日本人会のうち、今回は8か所の代表が参加した。同時に大使館主催で第41回安全対策協議会が開催され、外務省海外安全ホームページから、感染危険情報、危険情報について、及びマレーシアの安全情報が共有された。

② 会員数推移報告

(柳井事務局長)

配布資料参照。

法人会員：22年3月末時点の281社から23年3月末276社へと、年間で5社、1.8%の減少。前年度の11社減の約半分の減少となった。

個人会員：22年3月末時点で1,284名(ご家族含んで2,917名)から23年3月末時点で1,256名(ご家族含んで2,992名)となり、個人会員数は28名、2.2%の減少となったが、ご家族を含めると逆に75名の増加となった。個人会員数28名の減少については一昨年度の158名減と比べ、だいぶ減り幅が少なくなっている。

個人会員のうちMM2H：204名から194名へと10名、4.9%の減少。家族会員含めると、年間で29名の減少。

賛助会員：272名から293名へと会員数は年間で21名、7.7%の増加。

学生会員：6名から16名へと10名増加。

会員種類	2022年3月末会員数	2023年3月末会員数	年間増減
法人会員	281社	276社	-5社
個人会員 [内MM2H]	1,284名(2,917名) [204名(371名)]	1,256名(2,992名) [194名(342名)]	-28(+75) [-10(-29)]
賛助会員	272名(519名)	293名(579名)	+21(+60)
学生会員	6名	16名	+10

()内は家族会員も含めた人数

総括：昨年度も全ての会員種別で会員数が減少。減少幅はその前の年度に比べるとだいぶ緩やかになってきている。一方、個人会員のご家族を含めた人数、それと賛助会員数、学生会員数は夫々増加に転じている。原因について会員種別ごとに申し上げますと、

法人会員の減少については、コロナ禍からの経済回復の過程において、依然事業の縮小や撤退、経費節減、或いは代表者の現地人化等が進んでいることによるもの。

個人会員については、会員数は若干減少しているものの、家族会員の数は増加しており、ご家族帯同者の増加、或いはコロナ禍で日本に緊急避難していたご家族が当地に戻って来られたのではないかとと思われる。

MM2Hの減少については、一昨年10月から適用された新規MM2Hビザの発給条件の厳格化によって、新たにMM2Hビザを取得した方が大幅に減少したこと、一方日本人のMM2Hビザ申請者が急増した2011年の東日本大震災後の数年間から10年を経過して丁度ビザの更新の時期を迎え、この機会に本帰国されたという方が増えているという背景がある。賛助会員と学生会員の増加については、コロナのパンデミックからエンデミックへの移行に伴って各種規制が緩和され、それに伴って講座やサークル活動が再開した為と見ている。

資料17ページにある棒グラフは、白抜きが毎月の個人会員の入会数、黒塗りが退会数を表している。昨年度の傾向は、前年度とは変わって年間を通して新規入会者と退会者の数が拮抗していると言える。コロナ後の入国規制の緩和に伴って入国者が増え、徐々に新規入会者の数も回復してきている。

資料18ページの折れ線グラフは、会員数の年毎の変化を表しており、一番上のグラフが各年度末3月時点の個人会員数。1996年のピークに次いで2015年が2番目のピークとなっている。2020年度と2021年度はコロナ禍により急激に会員数が減少したが、2022年度は減少が緩やかになっている。また、上から二番目のグラフはKL日本人学校の年度末の生徒数を示しているが、昨年度は一昨年度に比べ増加に転じている。これは先ほど述べた家族会員数の増加を表していると言える。今後数年については、長期的な傾向として個人会員の減少は継続するものの、その具合は穏やかな状況が続くものと予測。

以上のとおり説明が行われた。

(3) 2022年度収支決算案の件（審議）及び監査報告

① 決算案の件（当日配布資料参照、千リンギ単位で四捨五入して説明）

（高松財務委員長）

【事業収入】

2022年度の事業収入合計は、390万8千リンギとなり、予算計画比102%、金額にして74千リンギ予算を上回る結果となった。

#3000 会費・入会金：3.5%予算を上回る結果となった。会費は会員の減少幅が予算の前提条件より小さかったこと、入会金は予算の前提条件より新規入会者が多かったこと、施設利用料は会員活動が活発化してきたことを夫々示している。

#3100 店舗や教育テナント：ほぼ予定通り、日馬和里レストランは2022年3月分から2023年3月分迄13ヶ月分を入金したことにより予算より多く入金。また、自販機については前の業者が昨年4月に撤退した後、現在の業者が7月に入るまでの空白期間があったこと、賃料値下げの影響により予算を下回っている。

#3200 日本人墓地等：予算比81%。予算比マイナスの要因は日本人墓地に関する収入で、これは一昨年の実績をもとに予算を策定した際に、大使館から頂いている墓地管理費用を本来、年2回のところを3回分カウントしてしまったことによるもの。

#3300 その他の会員活動等からの収入：予算比96.5%。予算未達の要因は3年振りに開催した盆踊りの収入が予算より少なかったことだが、州政府及び各協賛企業からの寄付金、うち協賛費が計画通りには集まらなかったことによるもの。

【事業支出】

事業支出の合計は384万3千リンギ。予算比89.7%。金額にして44万1千リンギ少ない結果となった。この結果、会員事業収支は64千リンギの黒字となり、予算比51万5千リンギの上振れとなった。

#5000 事務局運営に関わる費用：全体として節約が出来、予算比10万6千リンギの削減、比率にして88.8%の実績となった。

#5100 水道光熱費：電気代については電気料金の急激な値上がりと会員活動再開・活発化による使用量の増加が要因で大幅な増加となった。但し水道光熱費は、請求金額の約2/3をテナントの使用分としてテナントから回収している。

#5200 通信費：月会費のINVOICEの郵送を本年2月から電子メールでの送付に切り替えたことで2千リンギの節約となったが、今期以降はこの郵送費の削減が通年で収益に貢献してくるものと思われる。

#5300 従業員の給与・福利厚生費の下振れは日本人担当者の退職に伴い、10月以降予算比1名減と

なったことによるもの。

#5400 購読費・専門家費用：JCKL 慈善基金の免税期間の5年間延長交渉に際しての会計事務所費用が予算より少なく済んだこと、また弁護士・コンサルの費用を殆ど使わなかったことによるもの。

#6000 会員の活動に関する費用：新年会やその他イベントの費用を低めに抑えたことが要因で、括りとしては予算比で48千リング少なくなったが、盆踊りの費用に関しては、3年振りに開催したということもあって各費目共に値上がりしており、予算を3万リング超過。

#8000 プロジェクト費用については、クラブハウス改装費を使用しなかったこと、ITプロジェクトの費用が翌期にズレ込んだこと等で予算比24万9千リングの下振れとなった。

【会員事業外収支】

#3000 事業外収入：定期預金の利息収入はほぼ計画通りの実績。雑益については、前述説明どおり、電気代の内、テナントの使用分をテナント各社に請求、入金分であり、電気代が上昇した分テナントからの入金も増えている。

#9000 事業外支出：所得税が予算策定時の予測よりもかなり少なく済み、前述事業外収入と合わせた事業外収支は予算比約9万6千リングの良化となった。

【経常収支】年度累計実績で39万リングのプラスとなり、予算比61万1千リングの上振れとなった。

【財務収支】、新規入会者と退会者共に予算前提よりも多かったものの、退会者数が予測以上に多かったことから、預かり保証金の出入金の差額から、予算比7千リングのマイナスとなった。

【総合収支】

年度の現金収支実績が41万3千リングの黒字となり、計画に対し60万4千リングの上振れとなった。現金収支全体としては、前年度と比較して会員数は若干減少したものの、コロナ禍での各種規制が緩和されつつあることから会員活動も再開・活発化し、テナントもほぼコロナ以前の通りの営業を再開、収入面では予算を若干上回る結果となった。費用面では事務局運営費、会員活動に関する費用等でコストセーブが出来たこと、クラブハウスの補修・改装費用やITプロジェクト関係の費用等が先延ばしとなったこと等で予算に比べて出費が減少し、現金総合収支は41万3千リングの黒字となり、期末現金残高として877万7千リングを次年度に繰越す結果となった。

【損益計算書】

表の左列最下行にある総収益は422万7千リング。右列には各種費用が集計されているが、下から18行目辺りに償却前費用合計として380万リングがあり、そこから減価償却費と税金を差し引いた税引き後当期利益は5万4千リングのマイナスという結果となった。

【貸借対照表】

資産の部：2023年3月末の当日本人会の総資産は、1,664万1千リングと、前年度末比7万3千リング増加。その内、流動資産は前年比45万5千リング増加し877万7千リング、土地建物、機械器具、備品等の固定資産は、未完了のITプロジェクトの支払済費用である建設仮勘定31万7千リングを含めて前年比38万1千リング減少の765万5千リングとなった。

負債の部：流動負債（会員預かり保証金、前受金、事務局員の賞与引当金、SSTの仮受等）と固定負債である退職引当金を合算して、負債の部の合計は前年より12万7千リング増加して123万8千リングとなった。資本の部（会員勘定）は、新会館建設積立金を合わせ、前年比5万4千リング減の1,540万3千リングとなった。

総括：2022年度の現金収支は会館クラブハウスの補修やITプロジェクトの推進等を見込んで、赤字予算でスタートしたが、コロナ禍で発令された各種規制の緩和に伴う会員活動の活発化に支えられ、会費収入やテナント家賃など収入が回復、加えて各種経費の節約、前述プロジェクト関係費用の翌期へのズレ込み等によって現金収支はプラスとなり、一昨年度とほぼ同じ程度の現金を積み上げることが出来た。一方、発生主義に基づく損益計算書では、現金の出入りを伴わない減価償却費や引当金の計上によって若干の赤字決算となっているが、貸借対照表の資本の部をご覧いただくと、新会館建設積立金を除いても11.6百万リングの繰越剰余金を保有しており、財務状況としては十分に健全性が保たれていると考えられる。

②監査報告

(前田監事)

2023年4月21日に前田監事および守護監事の2名によってKL日本人会一般会計の監査が行われ、「監査の結果、いずれの会計も財務諸表は適正性を損なうような重要な不正・誤謬は認められなかった」との

報告があった。

2022 年決算については、異議なく、承認された。

(4) 新会館建設積立金報告

(平田クラブハウス将来計画小委員長)

2023 年 3 月 31 日終了事業年度の決算では、約 412 千リングの現金収支のプラスとなり、クラブハウス将来計画小委員会より理事会に対し、同事業年度決算の現金収支プラス分の 412 千リングを新たに新会館建設積立金に繰り入れることを提案し、理事会で承認された。

また、合わせて 2019 年に消防法対策工事の際に取り崩した新会館建設口座の定期預金相当分 589 千リングを同積立金から取り崩すことについても理事会の承認を得た。この結果、新会館建設積立金の残高は現在、過年度の利息を含み、約 365 万リングとなり、新会館建設口座の定期預金残高と同額となっている。

(5) JCKL 慈善基金活動報告

(高松財務委員長)

2022 年 11 月 16 日に Eastin Hotel にて第 50 回のチャリティバザーを KL 日本人会婦人部かたれあ会が主担当となって開催した。このバザーから得た収益については 2023 年 2 月 21 日にドネーション贈呈式を KL 日本人会会館第 1 ホールで開催し、総額 8 万 4 千リングを 11 箇所の福祉施設に寄付した。寄付の具体的な内容についてはの添付資料⑤-1 をご参照。

財務報告：2022 年 12 月 31 日終了事業年度の決算財務諸表については、添付資料⑤-2~4（現金収支報告書、損益計算書、貸借対照表）をご参照。

現金収支：慈善事業収入としてチャリティバザーの収入とその他活動の収入を合わせた慈善事業総収入は、15 万 3 千リング。慈善事業総支出の欄の 9 万 2 千リングを差引き、慈善事業収支は、6 万 1 千リングのプラスとなった。事業外収支、財務収支を加味し、年間の総合収支は 6 万 1 千リングの黒字となり、その結果期末の JCKL 慈善基金の現預金残高は 15 万 2 千リングとなった。尚、先ほど活動報告のところで申し上げた通り、本年 2 月にこの残高から 8 万 4 千リングの寄付を実施している。財務的には、慈善基金は特段問題なく推移している。

・所得税免税措置の延長申請の件について、一昨年の中頃以来、IRB（内国歳入庁）と交渉を継続していたが、本年 1 月に漸く 2022 年 1 月 1 日より 2026 年 12 月 31 日までの 5 年間の免税措置の延長が許可されている。

(6) 2023 年度予算案の件

(高松財務委員長)

当日配布資料参照。以下の通り説明が行われた。

【事業収入】

3000：個人会員数はコロナ禍の影響による減少も落ち着きを見せて来ており、会費関係の収入は前年比 1% 減を見込んでいる。この結果、会員関係の収入は前年実績 249 万 5 千リングに対し今年度予算では 248 万リングと見積もっている。

3100 テナント家賃収入：コロナによる規制緩和に伴い、殆どのテナントからは昨年通りの収益を見込む。但し日馬和里レストランは遅延していた昨年 3 月の家賃を含んで昨年度は 13 ヶ月分の支払いがあったため、今期はそれを除いた 12 ヶ月分としている。また帝京マレーシアについては、旧さくらルーム、旧小会議室、旧カルチャールーム 5 を追加でお貸しした際の移転費用負担分の分割払いが今期の途中で終了、前年度比はその分減少となる。

3300 その他会員活動からの収入：盆踊りのうち協賛金の単価値上げやケータリング業者用のブースの増設と単価の値上げ等で盆踊り大会の収益増を見込んでおり、前年度比約 12 万 5 千リングの増収予測としている。

会員事業収入全体：前年実績比約 2%アップの 397 万 3 千リングを見込む。

【事業支出】

・# 5000 事務局運営費用：職員採用費用等を中心に約 7 万 3 千リング、前年度比 9%のアップ。

・# 5200 通信費：# 5202 郵便費について今年 2 月から会費請求書の郵送をやめてメールでの配信に変えたことで年間では大幅な節約を見込んでいる。

・# 5300 労務費関係：給与体系の改定、昨年 10 月以来欠員となっていたイベント担当員の採用、長期勤続者の定年退職に伴う退職一時金の支払い等によって約 30 万リングの増額となる。

・# 6000 活動費用：# 6006 盆踊り大会実施に伴う各種費用の増加や # 6022 その他イベントで KL 日

本人会創立 60 周年の記念イベント開催の費用 2 万リングを見込んでおり、前年度比 7 万 5 千リングの増加を見込む。

・#8000 プロジェクト関係：#8003 クラブハウス改装費ではホールの床の改装、シロアリ被害のあった会議室の壁の修理、屋上の水タンクの改装等で 3 万 8 千リングを計上。また#8006 IT プロジェクト費用は今年度にズレ込んだ会員管理の開発費残金 50%の支払を見込んでいる。

会員事業支出の予算計画値として今年度は 441 万 6 千リングとなり、前年度実績と比較すると 57 万 3 千リングの支出の増加を予測。

結果、会員事業収支は、会員事業収支は44万3千リングのマイナス。定期預金利息や雑益、所得税等の事業外収支を加えた経常収支が13万1千リングのマイナス、預かり保証金等の財務収支を加えた総合収支は10万1千リングのマイナスとなる予算計画。従い2024年3月末の現預金残高としては、前期末の繰越約877万7千リングから10万1千リング減少し、867万5千リングとなる見込み。

総括：収入面では会費関係の収入減、テナント家賃の収入減等のマイナス要素はあるものの、盆踊り大会開催に伴う収益増でそのマイナスをカバーし、収入全体では前年比 6 万 5 千リングの増収。一方運営費については人件費の増加、各種イベント開催経費の増加、クラブハウス改装費、IT プロジェクト費用等の支払いを見込み、会員事業支出は前年比約 57 万 3 千リングの増加となる。これに事業外収支、財務収支を加味すると、前年実績比で約 51 万 4 千リングの総合収支の悪化となり、今期の予算計画は約 10 万リングの赤字予測となっているが、先に述べた通り永年勤続者の退職金、会館の改装費、IT プロジェクトの残金支払いなど、一時費用の支払が約 20 万リングあり、これらを除けばキャッシュフローとしては黒字体質を維持していると言える。については引き続き日々の運営コストの節約に努め、赤字縮小に取り組んでいく所存。会員の皆様のご理解をお願いしたい。

2023 年度予算案は、質問・異議なく、原案の通り承認された。

(7) 2023 年度日本人会理事選挙結果報告

(前田選挙管理委員長)

会則・選挙に関する規則に従って選出理事候補の推薦を受け付け、既に会員に通知した通り、法人会員登録名義人から理事 11 名、個人会員から理事 4 名が当選したことが報告された。(会員番号順、敬称略)

(i) 法人会員登録名義人からの理事 (定員 11 名)

①	安部 智晴	Ajinomoto (Malaysia) Bhd
②	犬塚 麻由香	Mizuho Bank, Ltd., Labuan Branch
③	高松 文生	MUFG Bank (Malaysia) Bhd
④	藤原 毅	Marubeni Malaysia Sdn Bhd
⑤	白石 雅資	Mitsubishi Corporation
⑥	鳴釜 宏充	Mitsui & Co. (Malaysia) Sdn Bhd
⑦	堀口 勝人	Sumitomo Corporation Asia & Oceania Pte Ltd., KL Branch
⑧	森本 昌明	Tokio Marine Insurans (M) Bhd
⑨	細川 純治	Panasonic Malaysia Sdn Bhd
⑩	大川 博	Sumitomo Mitsui Banking Corporation Malaysia Bhd
⑪	中林 透	Hong Leong Assurance Bhd

(ii)個人会員からの理事 (定員 4 名)

①	藤井 純一
②	杉山 雄一
③	松尾 義裕
④	山本 明浩

(8) 2023 年度新会長選出報告

(堀口総務委員長)

選出理事 15 名により構成される第 1 回暫定理事会 (5 月 26 日開催) にて新会長を互選し、白石 雅資氏 (Mitsubishi Corporation) が全会一致で選出されたことが報告された。

(9) 2023 年度任命理事氏名の報告

(白石新会長)

第 2 回暫定理事会にて、次の 14 名が任命理事に選出されたことが報告された。(敬称略・順不同)

(i) 個人会員又は法人会員登録名義人の中から

1	飯塚 隆史	Aeon Co (M) Bhd	法人登録名義人
2	小田 竜介	Hakuhodo (M) Sdn Bhd	法人登録名義人
3	小野澤 麻衣	JETRO Kuala Lumpur	法人登録名義人
4	柏原 貞俊	UMW Toyota Motor Sdn Bhd	法人登録名義人
5	神林 義之	Likearisingsun Sdn Bhd	法人登録名義人
6	荘司 憲一	Toyota Tsusho (Malaysia) Sdn Bhd	法人登録名義人
7	菅原 美奈子	Japan International Cooperation Agency (JICA)	法人登録名義人
8	中島 裕美	Hitachi Sunway Information Systems Sdn Bhd	法人登録名義人
9	中林 徹	Sojitz (Malaysia) Sdn Bhd	法人登録名義人
10	平田 順久	Sato Kogyo (M) Sdn Bhd	法人登録名義人
11	福岡 浩人	Eneos Corporation	法人登録名義人
12	星合 大	Itochu Malaysia Sdn Bhd	法人登録名義人
13	安光 晋作	Japan Airlines Co Ltd	法人登録名義人

(ii) 在マレーシア日本国大使館から

1	山田 元一郎	Embassy of Japan	個人会員
---	--------	------------------	------

(10) 管財人の選出

5 月定例理事会にて、2023 年度及び 2024 年度の管財人には、森田益充氏が推薦され、年次総会に提案された。本件、異議なく、承認された。

(11) 白石新会長の挨拶 (要旨)

2023 年度の会長を務めさせて頂くことになりました白石雅資と申します。マレーシアには 2000 年から 2004 年に一度在勤しており、今回は 2020 年 10 月から二度目のマレーシアでの日々を過ごしております。これまで 2021 年度、22 年度と日本人会の副会長を務めさせて頂いておりましたが、今年度は会長としてどうぞ宜しくお願い申し上げます。

日本人会の活動は会員の皆様はもとより、日本国大使館、会員企業、日本人学校、マレーシア人留学生 OB、地元の方々など、様々な皆様のご支援で成り立っている事は言うまでもありません。まずはこの機会に改めて日頃の会の運営へのご協力に深く御礼申し上げます。マレーシアにおいてはコロナ禍も落ち着きを見せ、昨年度は 3 年ぶりの盆踊り大会が 5 万人を超える来場者を集め開催され、同じく 3 年ぶりの「秋の味覚を楽しむ会」や、第 50 回チャリティバザー、新年会など様々なイベントをほぼコロナ前に近い形で開催することができました。また日本人学校においても、コロナ禍での園児・児童・生徒の減少に歯止めが掛かり、昨年度の終わりには前年を上回るまでに回復しました。

今年は 1963 年 11 月 25 日にマレーシア政府からクアラルンプール日本人会設置の許可がおりてから 60 年目を迎えます。まだ記念イベントについては何も決まっておきませんが、従来からの様々なイベントを含め、日本人会の活動を益々盛り上げていきたいと思っておりますので、皆様のご支援と積極的なご参加を宜しくお願い申し上げます。一方で、時代の変遷に伴い日本人会を取り巻く状況も変わってきており、その運営基盤、財政基盤は決して盤石なものではありません。最低賃金の大幅改定等に伴う人件費や物価の高騰も予断を許さない状況にあります。「会員相互の親睦と互助、マレーシアと日本の友好と親善の促進」という日本人会の理念は引き続き大切にしながら、より効率的かつ持続可能な経営のために理事会および事務局のメンバーと共に尽力して参る所存ですが、皆さんから日本人会をもっと利用しようと思って頂けるよう日本人会の魅力を高めることも大事だと考えております。そのためにも会員の皆様のご理解とご協力が不可欠です。引き続き日本人会へのご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

(12) 質疑応答：特になし

■ 閉会の辞

(柳井事務局長)

以上